

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター高丘担当圏域レベル）  
開催報告書

1 開催日時	令和7年10月31日（金） 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	北部協働センター 第2・3講座室
3 参加者	23名 協議体委員15名、関係機関8名（浜松市高齢者福祉課1名、中央福祉事業所長寿支援課1名、地域包括支援センター高丘3名、市社協浜松地区センター3名）
4 協議の内容	① 認知症にも地域にも優しい街づくりについて ② 地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>(1) 令和7年度第1回協議体会議の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 令和7年度第1回協議体会議開催報告書を用いて、振り返りを行った。</li></ul> <p>(2) にも通信第2号について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 第1回協議体会議のグループワークで出た意見をもとに、事務局で「にも通信第2号」（案）を作成した。</li></ul> <p>① 配布先について（案）</p> <p>【1】各町内での回覧</p> <p>【2】各自治会館及び公民館 協働センター CSW・地域包括支援センターが関わりのある機関</p> <p>【3】シニアクラブ・サロンでの配布 民生委員・児童委員を通じて配布</p> <p>② デザイン・内容の最終校正</p> <p>③ 配布する時期に関して⇒ 令和8年4月</p> <p>第1号「にも通信」は4月に配布した。家族構成の変化、新しく住民となった方への情報提供を考え、今回も4月に配布するのが良いと検討。</p>	

にも通信に関する質疑応答

委員：にも通信第1号はどのくらい反響が出たのか？

事務局：にも通信を見て市社協へお問い合わせをいただいた方は何名かいたと把握している。また、包括においてもお問い合わせをいただいていることを確認している。

委員：裏面の緑色のところが少し見にくい。誰でも見やすい色に変えていただけると良いのではないか？

事務局：見やすい色に訂正を行う。

- ・にも通信に関しては、（案）の内容を少し訂正し、事務局が印刷を行う。
- ・令和8年4月に各町内で回覧が行えるよう、対応する。

（3）地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み  
以下、①と②をグループワークで話し合った。

①地域住民同士のつながり（隣近所）、自治会、サロン、シニアクラブなどで  
行われている見守り・事例があれば教えてほしい。

- ・月1回のいきいきサロン。⇒サロンへ行き、生の声を聞いた方が良いのでは。
- ・地区社協 高齢者サロン
- ・2人高齢者世帯が単身世帯になった時、さりげない見守りを心掛けている。
- ・地域住民が孤立していると考える人の状況を共通認識として持たないと解決の議論は進まない。
- ・近所としては電気が付いているかの見守り。
- ・サロンでつながり⇒休むときは連絡をしてもらい安否確認をする。
- ・新聞店の見守りサポート
- ・自治会 敬老会や老人クラブに加入しているとながらやすい。  
アパート住まいの方は老人クラブに加入しない。
- ・心配な方は町内で見守りを実施している。
- ・公園での草取りで近況を情報交換している。
- ・オレンジシールを貼っている方が数名いる。（周りに説明し、理解してもらう）
- ・自治会行事・お祭りへ孤立している人は参加しない。つながるのは難しい。
- ・アパートは管理会社も情報を教えてくれなく、回覧板を回しても見ない。
- ・外国の方も増加しているが、つながりたくてもつながれない。
- ・家事支援の件数が少ない。

- ・ゴミ集積場が多く、買い物するところも充実している
- ・集会所を活用し、カラオケ、卓球、健康マージャンを実施している。

②新たなにできたら良いと思う「見守り」、「交流」はあるか。

- ・班の中では助け合いができています。
- ・移動販売車が公民館に来ているが、どこを通っているか把握できると良い。
- ・福祉相談会
- ・若い方が地域とつながる。
- ・サロンに参加できない方へのアプローチ。
- ・祭りなどのイベントで餅まきやプレゼント企画。
- ・近所で行けるところを増やす（出張映画館）
- ・小さな変化（自動車が動いていない）、散歩、電気、カーテン
- ・小さいときから高齢者とつながる体験。
- ・一人暮らし安否確認の方法でLINEの活用。スマホ教室。
- ・人との交流を生み出す仕掛けが必要。
- ・出てこない人へのアプローチ。ゆるやかな見守り、安否確認。
- ・10年前と比較し、単身世帯2.5倍。10年先に向けて対策が必要。

#### 4. 事務連絡

第3回協議体会議に関して

令和8年2月頃を予定。日時が確定したら、各委員へ連絡させていただく。

第3回協議体は、ボッチャを行う予定。第1回のグループにて、「交流のボッチャ対決等の交流会を行うのも良いかもしれない。」という意見が出たため、第3回目の内容で行うこととした。近年、浜松市内各地のサロンでボッチャが行われており、泉地区サロンである「泉にここカフェ」でも、活動内容の一つにボッチャが導入されている。

とある地区の方からは、サロンでボッチャする中で、新しい知り合いができたなども聞いている。協議体の委員の皆様実際にボッチャを体験していただき、地域、シニアクラブ、地区社協に実際に体験された内容を周知いただきたいことを説明した。

#### 6. 閉会

#### 5 今後の見通し・ 必要な対応

### 第3回協議体会議について

「地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み」について

- ① ボッチャや新たな体験ツールを紹介し、集いの場の創出や外出の機会をどう作っていけるかを検討する。
- ② 第2回協議体会議で出た内容をもとに、引き続き、地域でつながりを持って暮らしていける仕組み・社会資源の検討を行う。